

評価シート 様式

取組名	～伊勢志摩地域の歴史・文化資源を紡ぐ～国際観光・海洋文化都市鳥羽の創造にむけて(海の国再生事業)		
実施団体名	鳥羽元気再生事業推進協議会	対象地域	三重県鳥羽市
(代表団体名)	鳥羽商工会議所	推薦団体名	—

① 実施 状況	提案書に記載された取組内容について、当初の計画通り実施されているか	② 実施 体制	平成20年度に行われた取組の実施体制について
	<input type="checkbox"/> 申請時に予定した取組を適切に実施したと判断される。		<input type="checkbox"/> 実施した取組について、当初の計画通り地域の関係者が明確な役割分担の下、各々主体的に実施されたと判断される。
	<input checked="" type="checkbox"/> 申請時に予定した取組の一部が未実施となっている。但し、予定した主要な取組は適切に実施したと判断される。		<input checked="" type="checkbox"/> 実施した取組について、当初の計画通り地域の関係者が明確な役割分担の下、各々主体的に実施されたと判断されるものの、改善の余地が認められる。
	<input type="checkbox"/> 申請時に予定した取組の一部又は全部が未実施となっており、特に主要な取組が実施されていない。		<input type="checkbox"/> 実施した取組について、主体的に実施されたと判断できない。
(備考・特記事項)		(備考・特記事項)	
③ 効果	平成20年度に行われた取組の当初目標の達成状況について	④ 継続 展開 の見 込み	平成20年度に行われた取組の継続展開の見込みについて
	<input type="checkbox"/> 当初設定した目標を達成し、実施した取組が予定していた成果をあげたと認められる。		<input type="checkbox"/> 実施した取組について、当初の計画通り又は発展的に継続展開が予定され、持続的・効果的に取組が進捗すると見込まれる。
	<input checked="" type="checkbox"/> 当初設定した目標の達成には至らないものの、実施した取組が予定していた成果の一部又は全部をあげたと認められる。		<input checked="" type="checkbox"/> 実施した取組について、当初の計画とは一部異なるものの、取組方法の改善等により持続的・効果的に取組が進捗すると見込まれる。
	<input type="checkbox"/> 実施した取組が当初の目標の達成に至らず、予定していた成果をあげることができなかったと認められる。		<input type="checkbox"/> 実施した取組について、当初の計画通り持続的・効果的に取組が進捗するとは見込まれない。
(備考・特記事項)		(備考・特記事項)	

※①において「申請時に予定した取組とは異なる取組が行われた」場合や、③において評価シート作成時点で成果を把握できない場合など、留意事項がある場合に「備考・特記事項」欄に記載する。

評価シート 様式

取組名	～伊勢志摩地域の歴史・文化資源を紡ぐ～国際観光・海洋文化都市鳥羽の創造にむけて(海の国再生事業)		
実施団体名	鳥羽元気再生事業推進協議会	対象地域	三重県鳥羽市
(代表団体名)	鳥羽商工会議所	推薦団体名	—

⑤ 総合評価	○ 複合性、先導性・モデル性、相乗効果・波及効果に関する所見
	もともと観光が主要産業である伊勢志摩地域で、埋もれている地域資源を掘り起こすことで観光の活性化を行い、またまちのにぎわいにもつなげる取組であり、先導性・モデル性のある取組と評価できる。
	○ 評価
	<input type="checkbox"/> ①～④及び「複合性、先導性・モデル性、相乗効果・波及効果」の全てにおいて評価が高く、「地方の元気再生事業」の趣旨に鑑みて優れた取組であると評価できる。
	<input checked="" type="checkbox"/> 「地方の元気再生事業」の趣旨に合致した取組であると評価できる。ただし、①～④及び「複合性、先導性・モデル性、相乗効果・波及効果」のいずれかについて改善の余地が認められる。
<input type="checkbox"/> ①～④のうち1以上の項目で評価が低く、「複合性、先導性・モデル性、相乗効果・波及効果」においても特筆すべき点が認められず、「地方の元気再生事業」の趣旨に合致した取組であるとは評価できない。	
	(評価の考え方及び次年度以降に向けた所見)
	自然的資源と文化的・歴史的資源を有機的に組み合わせ、ストーリー性を持たせながら地域の新たな魅力創出を行ったという点で地域活性化に寄与する取組であると評価できる。次年度においては、以下の点に考慮した上で地方の元気再生事業を継続することにより、本格展開が期待できるものである。
	今年度の取組を一過性のイベントとして終わらないよう、官民の費用負担のあり方などを検討し、恒常的な継続モデルとして展開を図るべきである。また、まちの賑わいに直結する取組に重点化し、取組の内容については更に検討を進めて、具体化したものについて着実に実施して成果につなげるとともに、計画的な事業実施を進めていくことが適当である。
	具体的取組のうちカモメの散歩道の延長については、ハード整備と一体の調査ではなく、まちのにぎわいに直結した取組を検証する視点から再検討する必要がある。